



Kainan East Rotary

DISTRICT 266

CLUB WEEKLY BULLETIN

事務所 海南市日方1294 海南商工会議所内 TEL (07348) 2-4363
 例会日 毎週月曜日 12時30分 ♣オ1 例会のみ 18時30分 於海南商工会議所 4 F
 会長 岡田雅晶 幹事 松田易己 会報委員長 藤原長良

オ149回 例会 昭和53年7月24日(月) 於 海南商工会議所

1. 開 会 司 会 岡 田 雅 晶
2. ロータリーソング 「奉仕の理想」
3. 出席率 83.78% 会員総数 37名 出席者数 31名
前回修正出席率 94.60%
4. ゲ ス ト 海南市総務部企画広報課市史編さん係長 小橋英世様
5. ビジター 島村 宏様 (神戸東R.C.) 玉置 勇様 (海南R.C.)
6. メイキャップ 奥村匡敏君 (7/15オ266地区雑誌委員長会議ロイヤルホテル)
西岡 豊君 (7/19海南R.C.)

7. 会長スピーチ

ビジターの方々ようこそお越頂きました。

本日は先刻御紹介ありました様に市役所の小橋様をお迎して居ります。「海南市の町名由来について」お話を伺う事になっています。

昨日久し振りに海南クラブと私達で合同ゴルフコンペを行いまして、ホープの川尻さんが優勝されました。その他入賞の方々もいらっしゃいます。ニコニコも賑わう事と思います宜敷くお願い致します。

8. 幹事報告

- 例会場、日時の臨時変更お知らせ
 - ・ 海南R.C. 8/2(水) → 7/30(日) PM 5:00 有田郡広川町
マリンホテル橋
- 委員会活動に就いて
 - ・ 委員会の会合を持たれる時は若干の助成をします、活発にお願いします。
- 前年100%出席達成者発表致しますニコニコ宜敷く

REACH OUT.....手をさし伸べよう..... *cam*

9. 卓 話 小橋英世様

才 149 回例会の盛会をお喜び申上ます。諸先輩を前に高い所からお話をするのは始めて御座居ます特に市職員として市長を前に話す事など先づ無い事です。

「海南市の地名に就いて」お話をとの事ですが、地名と言えば「海南、から始まる訳ですが町名、小字を含めると千数百の数になると思います。地名夫々にお話がある訳ですが、頂戴した時間で大体海南と言う地名から市の中心である新浜、河内浜等調査資料に基いて報告する事に致します。

「海南、と言う名称、辞典で調べますと南方の海に添った土地、我が国では四国を指すと記されています。徳島に海南があります。本市の海南と言う地名は海草郡の南部と言う所から来た様です。市制を施行したのは昭和 9 年 5 月 1 日と言う事ですが、以前から海南は随分前から使われている。海南 3 町 1 村の合併の為考へられた海南ではなさそうです。更にその前に県立海南中学校が大正 11 年に開校されています。他に海草郡内には海草中学校が大正 4 年に設立、為に海草南部に是非中学が欲しい、随分地方の方々がお骨を折られた。中学を造るのに 13 万 5 千円郡内で調達、県に納付して創立内 3 万 5 千円は郡有財産を売却してつくったが之は中学敷地 8000 坪の土地調達に使われた。残り 10 万円は地で負担する訳ですが、黒江 2 万 6 千円、内海 1 万 7 千円、日方 1 万 2 千円、大野 1 万 3 千円、巽 7 千円、亀川 9 千円、紀三井寺 1 千 5 百円、安原 千 5 百円、仁義 6 百円、加茂千 5 百円、塩津 4 百円、大崎千 5 百円、浜中 9 百円、椒村 4 百円、野上各町村で計 5 千円、他岡崎邦助氏寄附 3 千円計 10 万を県へ納付して完成した、大正 11 年 4 月 9 日地鎮祭 12 年 3 月 6 日に竣工した。

開校は 11 年から日方小学校の一部を仮校舎として授業を行った、新校舎に移ったのは大正 12 年 3 月 20 日と記録されている。此の様で海南の地名は海草の南部海草郡は和歌山の手平に海草橋に郡役所があった頃海南船尾から南下津を含めて、海南と呼ばれ黒江と共に 3 町 1 村を合併して海南と名付けられた。

次に「新浜、にうつりますが新浜の事で調べたのは、古老に聞くと言う事で現在日方の昔を語る会と銘打って 3 回開きました。老年で明治 20 年代生の方も居られましたが、其の席上元市議上田安吉さんが「新浜が現在非常に発展しているが、現在市役所も新浜だが何時頃出来たものか」話題にされた。会を重ねるに川広木材の大将が日方小学校の東、戦時中立退いた寺西邸と言う武家屋敷の様な建物があった。其処から人夫が出て行ったと言う事を聞いた。それは紀州

藩の囚人である。鎖をはめられて働いていたと言う、又文化協会が発行してる海南文化と言う雑誌の中で日方の塩崎博氏が、新浜の埋立に長崎の切支丹が従事したと書かれている。此の2つが非常に参考になってその後調査に掛った。

和歌山県には江戸時代天保16年頃紀伊続風土記と言う記録がある。それによると新浜は京都平野の者、当浦（日方）の海面、南北5丁、東西10丁余り堤を築き塩田を造り之を京浜と言ったとある。保永4年津波の為壊された。今は干潮になると堤が見えると出ています。1丁は109米で随分大きい、新浜、日東紡跡地玉置さんの埋立を含めた位と考えられる訳です。市役所内の文献は津波にやられ少くなってるがお配りの地図の様に明治10年頃のものですが、之には、はっきり新浜と記されている。

もう一枚は日方浦の村役場で造ったものですが、明治19年に日本の軍用上の必要から陸軍参謀部の陸地測量部が造った。5万分の1地図の最初のもので。此の図の様に新浜は塩田の形ではっきり出ている、東浜、河内浜、矢の島も塩田と受止められる。天保10年（1840年頃）—明治5年（1870年）の間30年間に砂浜が突然あらわれる。

和歌山藩の囚人と長崎浦上の隠れ切支丹が34藩へ総4100人が配留される訳であるが、（明治初年）紀州藩へは250人～300人之が日方浦名高浦の塩田開発に差向けられた。更に明治2年から明治4年迄2～3年間作業に従事し塩田開発は3年程掛り、明治8年記録の塩浜14町4反畑地を入れて16町7反が課税の対称いになってる。

いったい開発をしたのは誰かと言うと藩政の末期から正米問屋平松孫左衛門、湯川太郎二人が開発団主である様です。町人が蓄積した財産を運用する方向として新田、塩田の開発、土地の所有に向けて来た。明治38年に専売法が出来て明治43年才1回の塩田整理で此の地は塩田を廃止する事になる。

河内浜、は紀伊続風土記で永保元年（1673年）河内の国より13名此の地に来り塩田を造り河内浜と称す。黒牛瀨、日瀨、黒江より藤白迄日方川、山田川の流し来る砂と海より黒江湾に打上る砂で洲が出来塩田に適した訳ですが、河内の国志貴郡小山村（藤井寺市）の年よりの六兵衛が中心になり此の地に塩田を築く事を発案する。藩許を得て矢の島から実森さんあたり迄を3年間で開発した。石垣の石は船尾山、城山、冷水浦、毛見浦から取っている。粘土は小雑賀、広瀬、大橋より採取工事の指導は幡州赤穂より招ねいた。

此の様に造られた塩田も宝永4年(1707年)南海大地震の津波の為に新浜、河内浜、有田屋浜も流されてしまう訳ですが、河内浜が修復の条件が良く宝永7年には修復されている。

其の期に船尾浜より河内浜として独立した様です。明治8年には又中浜、東浜六ヶ浜と合併される訳です。明治43年此の塩田の茅1次整理に依り廃止され、新浜が出来、東浜の繁華街と町の発展に続いて行きます。

此の頃市内電車を布設する計画が始まる。明治44~45年に紀三井寺から琴の浦迄45年には黒江迄軌道が延びた。大正7年東浜迄、昭和4年に海南駅前迄開通した。その他電車が布設される迄に鉄道馬車を走らす計画も具体的に進められていた様です。

取止めなく話しましたが時間ですので終わります。



ニコニコBOX

前年100%出席達成者(以下25名の諸君)

藤原、林、平尾、片山、河尻、岸、前窪、松田、宮田、中村雅、西川、追田、岡田、奥村、坂上、島村、田岡、土岐、上南、上田、藪根、山野明、柳川、谷井、吉田

河尻鳩親君(ゴルフ優勝、勝因良きパートナー、時宜を得たアドバイス)

〃(予想適中したスコア獲得)

倉橋利幸君(ドライビング、ニアピン両方受賞)

大沢祥宏君(5等入賞 B.G.)

平尾寧章君(河尻さん入賞の馬当てる)

追田博司君(ニアピン賞)

奥村匡敏君(良きパートナー、河尻さんと)

向井久佳君(実力以上の10位獲得)

楠部賢計君(7位入賞)

田岡啓一君(ドラゴン賞)

柳川和一郎君(都市対抗テニス大会(那須)参加)